

◆ 今週のコメント

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例(女児, 10歳未満)あり, 型別はO157(VT1・VT2)です。推定感染経路は経口感染です。本年の累積報告数は4例となっています。
- デング熱の報告が1例(女性, 30歳代)あります。推定感染地域はスリランカで, 推定感染経路は蚊からの感染です。本年の累積報告数は5例となっています。
- 風しんの報告が12例(男性 8例(20歳代 1例, 30歳代 4例, 40歳代 3例), 女性 4例(10歳代 1例, 20歳代 2例, 50歳代 1例))あります(第18週追加報告分 1例含む)。本年の累積報告数は110例となっており, 風しんが定点把握疾患から全数把握疾患に変更(平成20年)以降, 最も多かった平成24年の累積報告数(26例)と比べて, 約4.2倍となっています。
なお, 2枚目の発生状況の概況グラフについては, 前号まで掲載していた「2 インフルエンザの推移」を終了し, 新たに「2 風しんの推移」を掲載することにしました。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は1.56(64例)で, 前週1.34(55例)よりも増加し, 第19週(5月6日～5月12日)以降, 過去5年平均値を上回る状態が続いています。

◆ 今週のトピックス: <咽頭結膜熱>

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は0.63(26例)で, 本年度で最も多い報告数となっています。第19週(5月6日～5月12日)以降, 過去5年平均値を上回る状態が続いています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 4例】
- 四類: デング熱 1例【1月以降の累積報告数 5例】
- 五類: 風しん(検査診断例 11例, 臨床診断例 1例)12例(第18週追加分 1例含む)【1月以降の累積報告数 110例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.41	28
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	6.07	249
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.56	64
	③ 水痘	0.83	34
	④ 咽頭結膜熱	0.63	26
	⑤ 突発性発しん	0.44	18
眼科	流行性角結膜炎	0.40	4

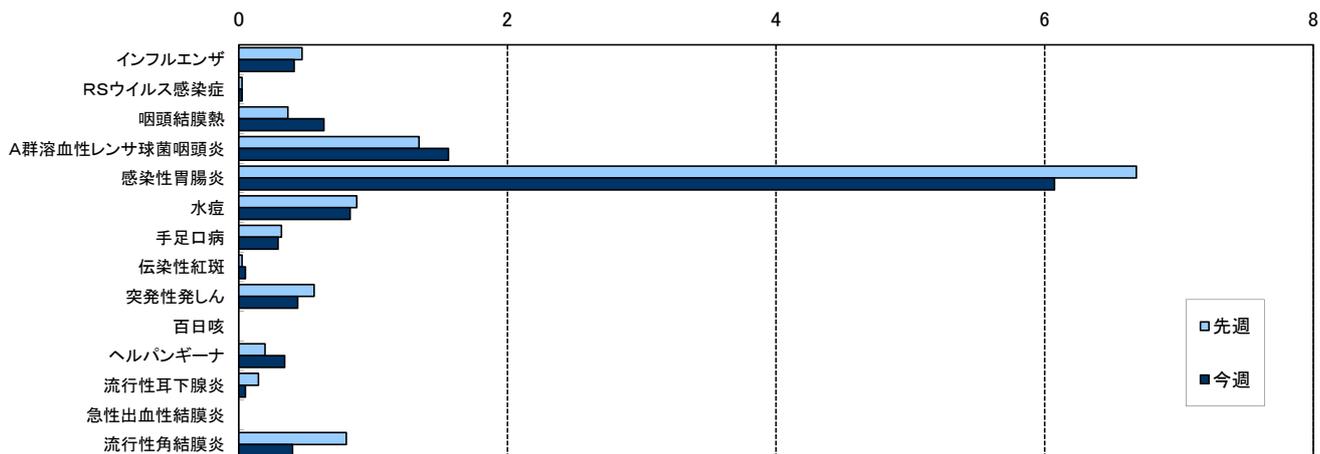
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <咽頭結膜熱>

(注) 京都市のデータは, 平成25年6月13日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

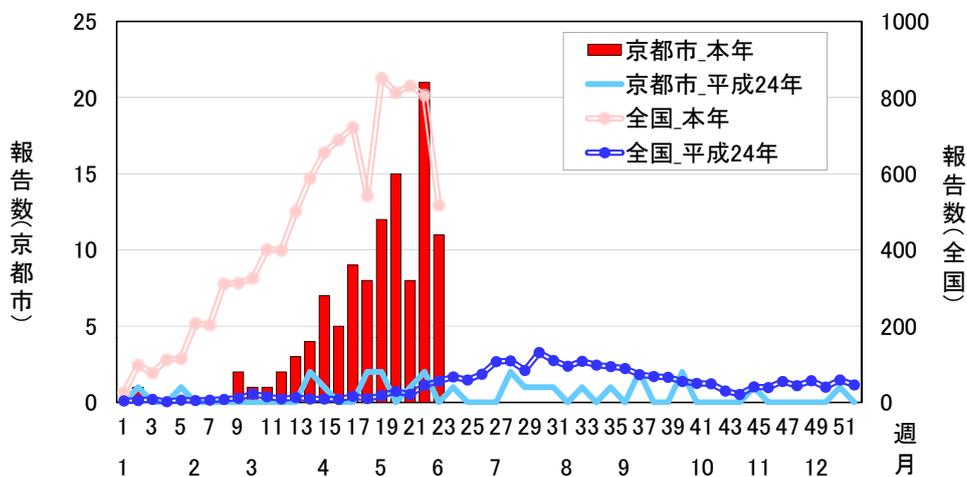
1 今週(第23週)と先週(第22週)の定点当たり報告数の比較



2 風しんの推移

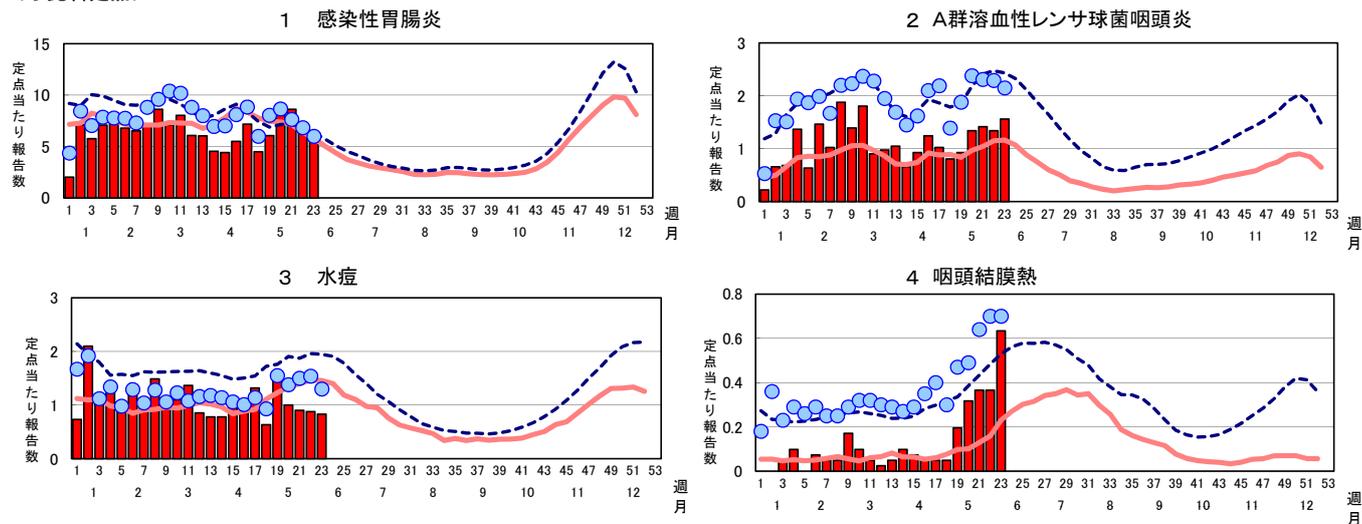
今週の報告数(累積報告数)
平成25年6月13日現在

京都市	11例 (110例)
京都府(京都市を除く)	4例 (55例)
近畿6府県	228例 (3620例)
全国	521例 (10111例)

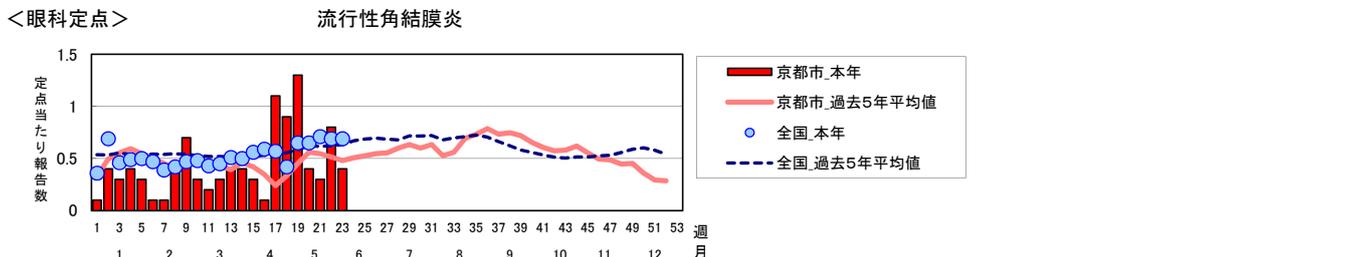


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>

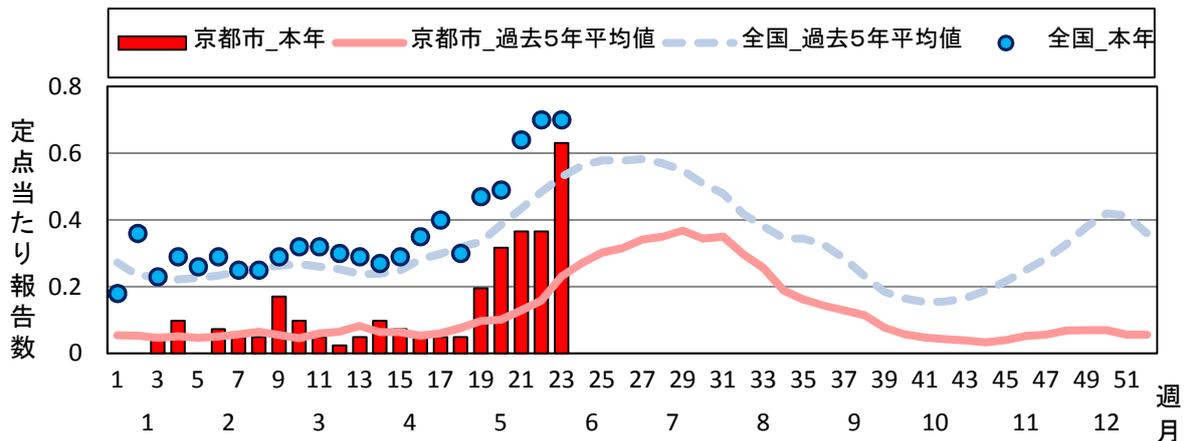


第23週(6月3日～6月9日)トピックス: <咽頭結膜熱>

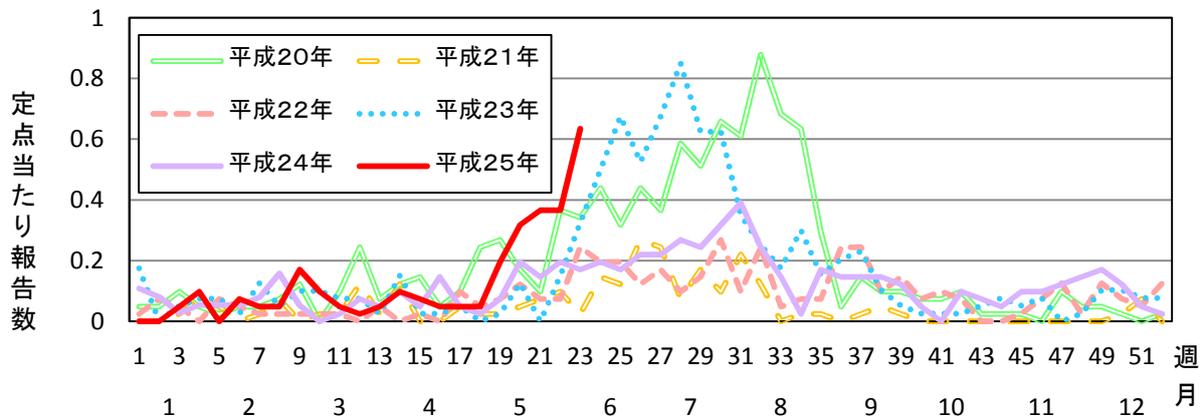
咽頭結膜熱の定点当たり報告数は0.63(26例)で、本年で最も多い報告数となっています。第19週(5月6日～5月12日)以降、過去5年平均値を上回る状態が続いています。例年6月頃から徐々に増加しはじめ、7～8月に流行のピークを迎えます。今後の動向にご注意ください。

全国の定点当たり報告数(0.70)は、前週(0.70)とほぼ同じですが、都道府県別においては、25府県で前週より増加しています。うち近畿6府県では、4府県(京都府、奈良県、滋賀県、兵庫県)で増加しています。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



本市の定点当たり報告数の年推移



年齢階級別定点当たり報告数の推移

